

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400303		
法人名	有限会社 札幌すこやか介護サービス		
事業所名	グループホームすこやか		
所在地	札幌市西区発寒6条13丁目10-22		
自己評価作成日	9月18日	評価結果市町村受理日	評価機関 記入

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	評価機関 記入
-------------	---------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成27年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すこよかの社訓である「やさしい手、あったかい手、ささえる手」を基本とし、いつも楽しく笑顔で過ごしていただけるよう職員はやさしく、あたたかく、寄り添ってケアを行っています。また、職員の腕によりを掛けた料理が自慢の一つで、元気＝食事をモットーに、美味しい食事を提供しています。同法人のデイサービスの送迎時間以外で車を使うことが出来るので、ドライブや外食、外出行事がいっぱい出来ます。年1回開催しているすこやか祭りには、地域のグループホームのお年寄りや保育園児、地域の方たちが楽しみにしてきてくださっています。近くの小学校や保育園との交流も行って運動会や芋ほりなど、かわいい子供たちの姿に目を細めて楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニットの「グループホームすこやか」は平成18年に開設し2階をグループホームとし、1階にデイサービス併設しています。公共交通の便も良く、近隣には大型スーパーや食事処、美容院、商店など有り生活環境に恵まれています。運営者は人材育成に力を注ぎ、職員が意欲を持って働ける環境を整備しており、管理者は常に向上心を持って職員を指導しています。職員は、考える力を養い、スキルアップを図りながらケアサービスに取り組むなど、日々研鑽に励んでいます。運営推進会議や避難訓練、事業所主催のすこやか祭りには地域住民の参加協力を頂いています。保育園や小学校の行事に招かれたり、事業所の芋ほりに保育園児を招待するなど、相互交流を深めています。毎日の楽しみである食事には豊富な食材を使い、工夫を凝らした職員手作り料理が食卓を飾っており利用者に喜ばれています。インターネットで産地の果物を取り寄せています。外出行事も多く、デイサービスの車を活用し、外食やドライブなど季節に応じて楽しんでます。事業所は家族の思いに沿った看取りを支援するために、医師・看護師・管理者・職員が一丸となり取り組み、家族の信頼に繋げています。管理者・職員は、利用者一人ひとりと向き合い、常に笑顔で穏やかに接し、尊敬あるその人らしい暮らしを支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、ホーム内の見えるところに掲げ、共有し、実践につなげている。 また、各自が持ち歩けるように理念を記したカードを所持し、いつでも確認できるようにしている。	運営母体のすこやか社訓を基本に、事業所独自の理念を作り上げています。5項目になる理念の中から、毎月1項目ずつ掲げ、日々のケアサービス提供場面で理念の具現化に努めています。理念は見易い場所に掲示し、職員は理念カードを常に携帯しながら意識付けに努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方たちと交流できるよう、すこやか祭りを開催している。また、小学校の運動会を見学させていただいたり、近隣の保育園ともお互いの催し物で交流している。近隣のスーパーへの買物や、散歩時などでのご挨拶など	町内会に加入し、事業所は地域との交流は勿論、若年層との交流を更に深めるために、小・中学校に出向き、認知症の理解と交流が図れるように取り組んでいます。保育園、小学校の行事に利用者が招かれたり、事業所主催のすこやか祭りに地域住民の参加を得るなど、相互交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣からの相談支援を積極的に行っている。小中学校に挨拶に行き、認知症の理解や支援の方法など、協力体制を築いている。徘徊模擬訓練や認知症カフェなど出来ることを探して行動している最中である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回入居状況や行事、普段の様子や取り組みを伝え、ご意見やご要望をお聞きしている。	運営推進会議は定期的を実施し、事業所の運営状況や利用者状況、活動状況などを報告すると共に、「高齢者虐待について」「徘徊高齢者等搜索模擬訓練」など、地域高齢者にも通じるテーマを提供しながら意見交換を行い、サービス向上に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	26年、27年度と西区管理者会議の代表をしており、西区保健福祉部や札幌市等担当者とう機会が多く、協力関係を築くようにしている。	管理者は、西区の管理者会議の代表を務めており、行政機関の担当者とは常に情報の共有を図っています。事業所の相談事項については、包括支援センター職員と話し合い、対応を共に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、年に一度、社内研修で全職員が身体拘束のリスク等研修を受けていて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。開設以来、身体拘束は行っていない。夜間帯のスタッフが独りになるとき以外玄関の施錠はしていない。	運営母体では合同研修会を定期的で開催し、全職員は身体拘束の弊害について学び、マニュアルも整備しています。職員は、身体拘束にあたる具体的な行為を理解しており、身体拘束を行わないケアを実践しています。玄関は防犯対策上、夜間のみ施錠しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、年に一度、社内研修で全職員が高齢者虐待防止研修を受けていて、高齢者虐待防止に努めている。また、スタッフ同士でも見過ごしが無い様、声掛を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度、社内研修で全職員が権利擁護について学んでいる。ご家族やご相談者等に自立支援や成年後見制度、生活保護などについて説明し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退所時、改定など十分な説明を行い、理解や納得をしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や、運営推進会議等で意見要望があれば、それらを運営に反映させている。また、普段から意見や要望を伝えやすい環境作りを行っている。	家族の来訪時には、その利用者の状況や暮らしぶりを報告出来る様に、全職員が利用者一人ひとりの状況を把握し対応に努めています。運営推進会議を始め、訪問時の面会票にも希望欄を設けて、意見・要望を汲み取れる様に取り組んでいます。毎月「すこやかだより」と前月の献立メニュー表を送付し、家族の安心に繋がっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段のカンファで、意見や提案を話し合い、できることは反映させている。社長面談時に自分の意見がしやすい環境になっている。	管理者は、職員と日常的に何でも話し合える関係作りに努めています。職員は、毎月のカンファレンスの場において自由に意見交換を行い話し合っています。また、運営者との個人面談も年2回実施され、目標達成シートを活用しながら、要望や提案を発信できる機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金規定に基本給格付け表を提示し、目標達成シートの作成を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年研修計画を事前に立て外部講師を招いて10回開催		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区管理者会議への参加や他地区で開催されるGHのイベント等にも参加させている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと行い、センター方式を使いたくさんの情報を集めその上でご本人の思いを知り、かかわりの機会を多く持ち信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談の機会を設け、話を傾聴し、相談や要望等に誠心誠意対応し、関係作りに努めている。 管理者のみならず、職員一人ひとりがご家族との信頼関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約や見学等で来訪された時、状況、ご希望をお聞きし、今必要な支援や他のサービスなど、情報を伝え、判断していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時より、ご家族、ご本人、職員を大きな輪と捉え、安心していただけるよう、ご本人の様子や小さな気付き等、お伝えし、みんなで支え支えていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時より、ご家族、ご本人、職員を大きな輪と捉え、安心していただけるよう、ご本人の様子や小さな気付き等、お伝えし、みんなで支え支えていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	しっかりアセスメントした上で情報を共有し、なじみの人、なじみの場所、関係が途切れないように支援している。墓参り、カラオケ、ふる郷ツアー、友人来訪など	利用者の高齢化に伴い、友人・知人の来訪は少なくなっています。センター方式のアセスメントを基に、利用者の馴染みの人や場所を把握し、墓参りやふるさと訪問など関係継続に職員が支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに楽しく、落ち着いて過ごせるように座席を考えたり、間に入ったりしてよい関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族が足を運びやすい場所となるように関わっている。退所後も、お見舞いに行ったりしている。年賀状が来ている方もいる。お通夜やお葬式に出られる職員は出席している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で意向の把握に努め、困難な場合はカンファレンスで検討し、本人本位の暮らしが出来るよう努めている。墓参りや小旅行、外食、本屋、ふる郷訪問等	センター方式のアセスメントを基に、職員は利用者のその時々意向を丁寧に汲み取りながら、思いの把握に努めています。日々の申し送りノートや気付きノートを活用して情報の共有を図り、外食やドライブ・買い物など要望に応じています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使い、ご家族ご本人から情報をいただき、生活歴やなじみの暮らしなどわかる限りお聞きし、入居後も会話や訪問者などに尋ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に、一日の過ごし方をお聞きし、それに添えるようにし、入居後は、申し送りや気付きノートを活用し、スタッフ間で情報交換して有する能力の把握に努め、一人ひとりの1日の過ごし方が出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンスで情報の交換、検討、モニタリングを毎月行っている。スタッフ全員の意見を反映している。ご家族来訪時には様子をお伝えし、ご希望等お聞きしている。	介護計画は、毎月のカンファレンスにてモニタリングを行い、利用者の状況を確認しながら職員の気付きや意見を出し合い作成しています。見直しは随時行い、家族の意向も面会時の話し合いを通して反映されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録や気付きノート、申し送りノート、日誌などに記入し情報を共有し、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族がいない方の通院支援や墓参りなどニーズに対応している。必要品の買出しなど。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が避難訓練に参加してくれたり、散歩していると声を掛けてくれたり、ボランティアや小学校、保育園との交流など。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を大切にしながら、主治医とご家族とGHとで連携しながら適切な医療を受けている。また、急な外来受診にも対応している。	医療連携体制を整備しており、協力医療機関からの往診も定期的にも実施されています。看護師職員の週2回の訪問で、日々の健康管理に努め、緊急時には24時間対応で連携を図っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回のすこやかNSによる健康管理時や突発時も情報や気づきをいつでも相談できる。主治医や看護師とも、24時間相談対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送時や入院時は病院へ行き情報提供している。退院に向けてのカンファレンスにもご家族と一緒に出席し、情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要な段階ごとにご家族と主治医とGHで話し合う機会を設けている。看取りも行っているのが最期までその人らしくいられるようにチームで支援している。	「重度化した場合における対応に係る指針」を策定し、看取り介護に関わる具体的な医療行為についても文書化され、利用者、家族に説明を行い同意書を得ています。既に4件の看取りを経験しており、医療連携のもと、家族とは何度も話し合い、方針を共有しながら支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や講習を全職員が受けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行ったり、社内研修で災害対策の研修を行ったりしている。運営推進会議等で地域との協力体制を築いている。	今年度は9月に防災設備会社の指導のもと、夜間設定で全職員に通報の訓練を経験させるなど避難訓練を実施し、災害対策の研修も受けています。緊急時対応連絡網に地域住民も加わり、緊急避難場所として近隣のグループホームと相互協力体制を図っています。備蓄品も確保しています。	事業所は災害対策に十分配慮されていますが、自然災害時は自主防衛が必要となるため、更なる課題として地震や台風・洪水・停電・断水など様々な災害に向けての自主訓練を重ねることを期待します。備蓄品も簡易ストーブなどの防寒対策の準備を検討されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年、尊厳やプライバシー保護についての研修を受けている。言動に配慮し、感謝と尊敬の念を持って接している。	職員はプライバシー保護や人権尊重の研修を受けています。利用者一人ひとりのプライドを大切に、入浴やトイレへの誘導もさり気なく、羞恥心に配慮した言葉かけを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日とその人に応じた声掛けを行い、意思や希望を表せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時のご本人の様子や体調、ペースに合わせて自由な日常生活を送れるよう支援している。 寝る時間やおきる時間、入浴など		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の天気や気温などを見ながら、ご本人の希望にあわせた服装を支援している。 お化粧する利用者様には、道具を用意したり失敗しないような支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを考慮したり、品数を多くして好きなものを選んで食べれるようにしている。 その人の出来ることを見極めて、下ごしらえや盛り付け、食器拭きを手伝っていただいている。	食事の準備には多くの利用者に参加してもらい、喜びを共有出来る様に配慮しています。献立は利用者の嗜好を考慮しながら、職員が作成しています。栄養のバランスを考えて、品数も多く彩りや盛り付けを工夫し、利用者の食欲に繋がるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、食事量を記録に残し、食べられない時はご本人の好きなものを提供したり、飲み物の種類を多くしたり、ゼリーやプリンを用意したり、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に応じた口腔ケアを行っている。 夜間、義歯洗浄を行っている。 週1回歯科訪診を受け口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にチェックし、ひとりひとりに合ったリズムを把握しトイレ誘導や声掛けを行い、失敗しないよう支援している。介護度が高くなってもトイレで排泄する支援を行っている。	排泄チェック表を活用しながら、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に繋がるように誘導や声掛けを行い支援しています。下着も布製やリハビリパンツ・オムツと日中や夜間、身体状況に即して変更し清潔保持と気持ち良さに配慮しながら、排泄の自立に繋がる支援に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事内容を考慮し、繊維の多いものや朝の冷たい水や牛乳、運動、マッサージなど、スムーズな排泄に向けての支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方の好みの入浴をアセスメントし、気持ちよく入浴出来るようにしている。入りたくないようなときは、時間をずらしたり、日を変えたりしている。また、コミュニケーションを図ることで、入っていただけるようにしている	毎日入浴出来る体制を整え、週2回以上を目安に入浴を支援しています。職員は、1対1の場面を大切に、本音を聞き出し思いの把握に努めています。介護度の重い利用者には二人介助で支援しています。体調が優れない時は、シャワー浴で衛生保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なじみのもの、使っていた布団を持っていただき、落ち着ける居室を作っている。それぞれのリズムに合わせ、入床、起床を行っている。高齢の方は、お昼寝される方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携で、服薬ミスのない様に努めている。薬の変更時、特に状態の変化がないか、観察している。職員は常に薬情を見てどんな薬を飲んでどんな副作用があるか、把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ること出来ないことを見極め、役割作りや楽しみごとを提供している。レクや外出外食など。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会が多く、買物やドライブ、外食、散歩などご本人の楽しめることを考え提供している。 お墓参りや生まれ故郷へのドライブなど。希望があれば、ご家族の同行もしていただいている。	その日の天候や利用者の体調を考慮しながら、チョコレートファクトリーのバラや幌見峠のラベンダー・五天山公園・小樽貴賓館を見学するなど、事業所は出来る限り利用者に季節を感じて頂けるよう支援しています。個人の要望である墓参りや故郷訪問も事業所の企画として取り入れ、皆で楽しんでいます。併設のデイサービスの車を活用しながら、閉じこもらない支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物やお祭りなど、本人がお金を使える支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙を書くのをお手伝いし、投函している。 電話の取次ぎをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような装飾や音楽、行事を取り入れている。レースのカーテンやブラインドで光の調節を行っている。パーティションを使用した視線の工夫を行っている。	改造型の事業所ですが、回廊式で洗面所も玄関脇とトイレの側に配置するなど、動線に配慮されています。リビングの両サイドには大きな窓が有り、明るく開放的な空間となっており、対面式キッチンでは利用者を見守り易く会話も弾みます。共有空間には、季節感を取り入れた職員手作りの飾りつけが施されています。壁には、利用者のスナップ写真や作品物が掲示されています。利用者は、食卓テーブルやソファなど好みの場所で寛いでいます。事業所で飼われている室内犬は利用者を和ませています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えを行ったり、配置換えをして、気の合うもの同士が過ごせるよう居場所作りをしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から、なじみのものやご本人の思考にあわせたものを持ってきていただき、居心地が良くなる工夫をしている。	各居室の入り口には手作りの郵便受けが設置され、手紙や誕生日カードなどを差し込んで活用しています。利用者それぞれが馴染みの筆筒やテーブル・椅子・ベットに仏壇などを持ち込み、配置も利用者の動線に配慮して、居心地良い居室を作り上げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることを把握し、解りやすく安全な環境作りに努めている。出来ることはしていただけるよう支援している。		